

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470900984	事業の開始年月日	平成16年4月1日	
		指定年月日	平成22年4月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ港北新羽			
所在地	(223-0057)			
	神奈川県横浜市港北区新羽町2435-17			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	平成22年8月3日	評価結果 市町村受理日	平成22年9月27日	
			エント数	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.mimoza-care.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作り環境作りに努め、いつでも笑顔があふれるグループホームになるよう職員一同心がけています。
また、ホームの裏は、緑があふれ心安らぐ環境になっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年8月19日	評価機関 評価決定日	平成22年9月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常のサービスへの理念の実践 <p>事業所の理念である、「利用者一人ひとりの生活習慣や考えを尊重し、その人らしく可能なかぎり自立できるよう、利用者の立場に立って暖かく支援して、安心して穏やかな暮らしをしてもらう」を、日常のサービスに活かし実践している。ホームのあちこちで利用者と職員の会話が弾んでおり、利用者が安心して過ごせる環境が培われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が自由に発言できる明るい職場 <p>管理者と職員間のコミュニケーションが良く、事業所内の雰囲気が明るい。定例会議だけでなく日常的にも職員が自由に意見を言える環境にするよう努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス部門との交流 <p>同じ事業所内のデイサービス部門で、ボランティアが実施している「習字」や「音楽療法」、「貼り絵」などの活動に、グループホームの利用者も参加して、生活の変化と活性化を図っている。</p>
<p><事業所が工夫している点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の夏祭りに地域住民を招待 <p>事業所が主催する夏祭りに地域住民の参加を呼びかけ、利用者と一緒に盆踊りや和太鼓の演奏などを楽しんでいただき、地域との交流に努めている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ港北新羽
ユニット名	ばら、うめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りやスタッフ会議などで職員に話し常に利用者の立場に立って理念の実践を目標に日々取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者の生活習慣や考えを尊重し、自立出来るよう支援・・・」の理念は、平成19年管理者が職員の意見を取り入れて作成した。 ・理念は事務室と職員室に掲示して、申し送りやスタッフ会議の都度、理念に基づく実践になっているかを確認している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し敬老会や、地域の祭りに参加している。また、ホームで祭りを開催し地域の方をお誘いした。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に入会しており、地域の敬老記念日には毎年参加している。 ・事業所主催の夏祭りには、地域住民にも参加してもらい、賑やかに交流している。 ・町内会の防災訓練、小中学校の運動会には利用者と共に参加している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学等は利用者に配慮しながら随時受け入れている。また、港北区老人クラブの会報にスポンサーとして広告を掲載させていただいている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では町内会長や民生委員、利用者の家族に参加してもらい、年間の行事報告や利用者の状況等を報告している。また、地域への積極的な参加を促され、近隣の小学校との交流を実施できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には、町内会関係者・家族・地域包括支援センターの職員が参加して、3か月ごとに開催しているが、次回から2か月間隔に変更する予定である。 ・会議で提案された要望については、その都度対応している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の利用者がいる事もあり、区役所との連携はとれている。現在も、区役所からの紹介あり。また、市が実施する講習会にも参加し関係を築けるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・区職員とは、事務手続き・利用者の紹介・相談など、緊密に連携を取っている。対応が困難な利用者の事例を、区職員に相談し解決したケースもある。 	

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては勉強会を実施したり、マニュアルを作成し理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束排除宣言」を事務所・スタッフ室に掲げ、職員に徹底を促して、身体拘束ゼロの実践に努めている。 ・玄関は日中は施錠せず開放し、夜間のみ施錠している。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての勉強会を実施し、学ぶ機会を設けている。また管理者は日々のケアで虐待がないか職員とよくコミュニケーションをとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料等を用意してある。また、成年後見人制度が必要な利用者には、家族に協力し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、口頭、文面にて説明し確認し合い、疑問点等も尋ね理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、意見や不満・苦情を聞き取り記録をしている。契約の際や事業所の見やすい場所に外部への連絡先を提示している。外部との意見交換はできていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者とは、日常の会話を通して、家族とは面談や電話の折、意見を聴き出すようにしている。 ・運営推進会議と年2回の家族会でも意見、要望を聴取している。 ・提出された意見は、サービス内容検討会議に計り、運営に反映すると共に、提案者には管理者が回答している。 	

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフ会議を行い個々の意見や提案を聞く機会を設け、反映している。	・事前にテーマを提出してもらって毎月のスタッフ会議を、職員の意見を聞く場としいる。欠席者には会議録の回覧を徹底している。 ・町内に出していたゴミを、直接業者に出す様に変更した改善例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々とコミュニケーションを密にし、努力や実績把握に努めている。また、資格取得等を促しやりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修やエルダー研修等スタッフの状況に合わせた研修の段階を経て、人材を育成する機会を設けている。また、事業所での研修の年次計画を立て実施したり、外部主催の研修に必要なに応じてその都度受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会の連絡会に出席したり、同協会の交換研修などで他施設と交流を持てるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期において、不安な気持ちであることを受け止め、入居前には必ず面接、体験入居を行い本人から意見・話を聞く機会を作り、よく理解したうえで受け入れている。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学等の機会を作り、十分に説明、困っている事や不安な事にもしっかりと耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービス内容を求めているのか、どのような支援が必要なのかを本人と家族と共に話し合い対処している。また、他のサービスを利用している際はサマリー等の情報をいただき参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者としてではなく同じ環境での生活をしている方として本人の意見や話を大切に傾聴する姿勢で対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子は月一回、手紙にて報告しており面会時には口頭での情報交換に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの友人がリビングや居室でゆっくり過ごせるよう支援している。又、電話等の交流も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 友人や知人の面会時には、ゆっくり話ができる雰囲気作りをした後、仕事・趣味など昔のことを話してもらっている。 利用者が、手紙や年賀状を出すときや、電話を利用する場合にも積極的に支援している。 	

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い充実した日々を送れるよう、一人ひとりの状況を充分把握して支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退居後は継続的な関わりはしていないが、友好的な関係を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関係を密にし本人の希望や意向の把握に努めている。又、一緒に生活する中で、必要と思われるサービスをカンファレンス等で個々に検討し支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の会話や行動から、利用者の身になって考え、思いや意向の把握に努めている。 ・把握が困難な利用者には、声掛けを多くし表情で確認している。 ・得られた情報はケース記録に記入し、ケアプランに反映している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話の中や家族からの情報を得、以前の生活について出来るだけ把握するよう努め、サービス利用での変化をカンファレンスで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、毎日ケース記録に残し、スタッフ全員が把握するようにしている。又、状況変化に対してはカンファレンスで詰めている。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との面会時に意見を聴き、今後のケアについて話し合っている。又、定期的にカンファレンスを行い、より良い介護計画を作成できるようにファイルしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画には、利用者・家族と主治医の意見を反映している。 ・計画期間は原則3か月としているが、状況が変化したときや家族からの要望により見直している。 ・日々の変化は、ケース記録に記入して計画に反映している。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人のケース記録に記入し情報を共有している。又、申し送りや業務日誌にて介護状況について共有し、介護計画の見直しの際参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスで音楽療法や書道教室に参加している。グループホーム以外の人間関係も大切にしている。また柔軟に支援できるよう、利用者・家族の声に耳を傾けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容や書道教室など利用している。また、事業所で祭りを開催し、地域の方との関係作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を利用し、月二回のDr. 診察を実施している。緊急時は夜間でもDr. に電話連絡を取れる状況で支持を受けられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者中の3名が入所前からのかかりつけ医を利用し、他は協力医で受診している。 ・協力医は、週2回往診し24時間の連携体制ができている。 ・通院の付き添いは原則家族に依頼し、ケースにより職員が支援している。 	

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師が巡回するので日常の状態や変化を伝え相談している。 又、医療的な事で分からない事は聞き、助言等をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院についての話し合いや情報交換等、協力医療機関に臨機応変に対応してもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとしてできる事は入居時文面にて説明しており、本人と家族の希望、医師の判断を仰いだ上で、今後のあり方についての方針を決めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本年7月協力医・看護師との医療連携体制が確立したので、今後、重度化や終末期についても、利用者・家族と話し合い、医師や看護師とチームを組んで、受け入れる方針である。 ・重度化や終末期対応について、職員の勉強会を実施している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については勉強会等で訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、消防署を招き避難訓練を実施している。地域との協力体制はまだ不十分な為、今後避難訓練に近隣の方も参加していただけないか相談する予定。	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の指導を得、利用者と職員が参加して、年2回避難訓練を実施している。 ・本年6月、スプリンクラーの設置工事を完了した ・防護用帽子、水・缶詰などを備蓄している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会と話し合い、地域との防災協定を結ばれることを期待します。 ・3日間を目安に、水・缶詰などの食糧の備蓄量を検討されることが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人ひとりの人格を尊重し、それぞれに合わせた言葉かけやこれまでの生活を生かした日々の過ごし方をさりげなく介助、支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の目を見て話し、表情から望んでいることを察し、利用者の気持ちを汲んで対応している。 ・排泄の支援は、人前でしないことを徹底している。 ・仕事や生活歴からできることは、実行すべく支援している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた目線で話を傾聴し、買い物や外出等できる範囲で本人の希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や入浴など本人のペースを尊重し、出来る限り本人の希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の理美容に来てもらい、髪型等本人の希望に合わせてカットしてもらっている。希望の店がある場合は家族の協力を得てお任せしている。又、化粧品や嗜好品等本人の希望や興味を示したときは支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや形態に合わせ臨機応変に日々楽しく食事が摂れるように支援している。又、職員と共に調理や盛り付けをし、一緒にテーブルを囲んで食事の時間を共有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、調理や配膳など可能な範囲で手伝い、職員と会話をしながら食事を楽しんでいる。 ・献立・食材は業者に依頼しているが、利用者の好みによっては職員が別に調理している。 ・裏の畑で栽培した野菜を調理したり、回転寿司・出前も楽しみの一つになっている。 	

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに関しては、業者の栄養士が献立を作り計算しており、それに従っている。また、水分に関しては水分量を個々につけ、しっかり飲んで頂けるように促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立にて行える方は促し確認し、介助が必要な方は、磨き残しがないよう支援している。また、週に一回訪問歯科が来るので診てもらい、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に排泄表をつけてパターンを把握し、一人ひとりに合わせた下着や誘導を行い、出来る限り自立できるよう支援している。また、プライバシーに配慮した支援方法を使い分けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・半数の利用者がオムツで、他はパンツ・パットを使用している。 ・排泄表で個々のパターンを把握し、定期的にトイレへ誘導して、排泄の自立を支援している。 ・排泄表を活用しトイレへ誘導して、オムツが取れた例がある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をよくとってもらい、散歩等で出来る限り運動して便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に合わせて、入浴する曜日や回数は決めずに行っている。又、本人の希望に沿って寛いで入浴してもらえよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週2～3回としているが、希望により回数・時間を決めずに対応している。車椅子利用者にはシャワー浴を行っている。 ・季節の菖蒲湯・ゆず湯や入浴剤で寛いでもらっている。 ・入浴を好まない利用者には、医師から声掛けしてもらおうケースもある。 	

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに合わせて支援している。夜間眠れない利用者には温かい飲み物を提供したり、話を傾聴して安心できるよう支援し、日中が活動的に過ごせるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬チェック表に薬の情報を入れ、いつでも目に入りやすいようにしている。また、服薬時は確実に飲み込むまで側から離れない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や掃除機がけ等、一人ひとりができる事を役割とし無理のない程度にお願いしている。又、個々の習慣を生かした趣味等をレクに盛り込み楽しんで頂けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺は急な斜面になっており外出がなかなかできないが、裏の畑は自由に入出りできるよう支援している。また、遠出を希望する場合は家族に協力を依頼し、外出していただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天候により、車椅子の利用者もホームの周りを散歩したり、2階のベランダで日光浴をしている。 ・周りは坂道で、徒歩での外出が困難の為、季節の花見や初詣・お祭りなどには車を利用している。 ・利用者の希望による外出は、家族に依頼している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者には、少しではあるがお金を自己管理してもらっている。買い物希望には一緒に行き、好きなものを選んでもらう等、本人の買い物欲を満たせるよう支援している。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡のやり取りを希望する利用者には、電話の使えるよう介助したり、手紙を用意している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは台所の調理の音が聞こえ、季節の花を飾ったりしている。又、ソファを配置し居心地良く過ごせる工夫をしている。テレビの音量や照明等状況に合わせて調節している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居間では、テーブルやソファ・椅子を分散して置き、利用者が好みに応じて寛げるように配慮している。 ・居室の温度や湿度は、利用者に応じて、職員が調整している。 ・裏庭や地続きの畑に咲く花を食卓に飾り、季節感を出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファなど寛げるスペースを設け、利用者同士が思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたタンスや仏壇等馴染みの家具や思い出のある物を持ち込んでもらい、本人がより快適に生活できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、ベッド・家具・仏壇・机など、使い慣れた物品を持ち込み、写真や思い出の品を飾り居心地良く生活できるように支援している。 ・職員は、居室の温度や湿度の管理に常に注意を払っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング・浴室に手すりをつけ危険がなくなおかつ出来る限り自立した生活を支援している。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り常に常に利用者の立場を尊重できるよう情報を共有し、理念の実践を目標に日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し毎年敬老会や祭りに参加している。又、近隣の小学校との交流があり互いの行事等で行き来している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学は随時受け入れている。また運営推進会議にて意見交換し、地域の高齢者に役立つ事がないか模索している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では町内会長や民生委員、利用者家族に参加してもらい、事業所の状況を報告したり意見交換しサービス向上に役立っている。また会議実施を、3カ月に1回から、2カ月に1回に増やした。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている利用者もいるため、区役所とは連携がとれている。又、市などが開催する講習会にも参加するようにしている。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設け利用者の現状の把握に努めている。又、委員会にて話し合われたものはスタッフ全体に説明し共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を開催したり、マニュアルを作成し学ぶ機会をもうけている。又、日常のケアに虐待がないか注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料は常にスタッフルームにあり、必要とする利用者には家族との連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に利用者、家族が十分に理解、納得してもらえるように説明し声にしっかり耳を傾け不安や疑問を出来る限り解決できるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族面会時に、意見・不満・苦情を聴いて記録している。外部との意見交換は今後していく予定。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議を実施、スタッフの意見や提案を聴き反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々とコミュニケーションを密にし、努力や実績把握に努めている。また、資格取得等を促しやりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの状況に合わせた外部研修や、社内研修を実施し育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所との交換研修を行いそれぞれのサービスを学び、情報を得る機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期において本人の気持ちを受け止め、入居前には必ず面接、体験入居を行い本人から意見、話をよく聞く機会を作り、理解したうえで受け入れている。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学の機会を作り、十分に説明の場を設けている。又、初期の段階で家族がなんでも話しやすいよう、丁寧に対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で、本人と家族が求めるニーズについて話し合い、必要としている支援をしていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者としてではなく家族のように接したり、人生の先輩として接し、本人の意見や、話を大切に傾聴している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の生活状況報告書での報告、面会時は口頭での報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が来所された場合はリビングや居室でゆっくりできるようにし、また電話での交流も行っている。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや音楽療法、書道教室にみんなで参加してもらい、孤立せず関わりを持つよう実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退居後は継続的な関わりはできていないが、必要とする利用者や家族には関係を大切にする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人ひとりの生活習慣や考えを尊重し、利用者と信頼関係を築く事で希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを活用し、本人の情報をスタッフのみが確認できる場所に保管しいつでも拝見出来るようにしたり、カンファレンスで経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活はケース記録に残している。それによりスタッフ全員が把握できるようにし、心身の変化があればカンファレンスにて対応している。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは職員がいつでも見れるところに保管し、それをもとにケアしている。カンファレンス等日々の中で意見を出し合い介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録はケース記録に記入し、スタッフは必ず目を通して。また意見等がある場合はスタッフ間の連絡ノートに記入し会議等の話し合いに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスで音楽療法や書道教室があるので参加している。又、本人や家族のニーズに耳を傾け柔軟な対応ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や書道教室の利用、近隣の小学校と交流がある。また民生委員を運営推進会議に招き意見交換、避難訓練時に消防を招いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在往診を利用しているが、往診を希望しない家族は馴染みのかかりつけ医のところへ受診している。また、近所の医療機関とも関係を築いている。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師が巡回するので日常の状態や変化を伝え相談している。又、医療的な事は聞き助言等を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院と連携をとり、退院にむけて環境を整え適切なケアにあたっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとして出来る事は入居時文面にて説明しており、本人と家族の希望、医師の指示を仰いだ上で、今後のあり方についての方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時と対応については研修等で訓練したり、資料等を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、消防署を招き避難訓練を実施している。地域との協力体制はまだ不十分な為、今後避難訓練に近隣の方も参加していただけないか相談する予定。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、それぞれに合わせた声かけやこれまでの生活を生かした日々の過ごし方を介助、支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望などを聴き常に本人に合わせた目線で傾聴し買い物、外食等出来る範囲で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や入浴、レクリエーションなどは本人の希望に沿って、本人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にてカットしてもらい身だしなみを整えている。また、髭そりや洗顔、整髪等出来ない方は出来るだけ本人の希望に沿って出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に、調理や盛り付けなど出来る方はやって頂き、食器洗いや片付けも一緒に行っている。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに関しては、業者の栄養士が献立を作り計算しており、それに従っている。又、水分量に関しては水分量を個々につけ、しっかり飲んで頂けるよう促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立にて行える方は促し確認し、介助が必要な方は磨き残しがないよう支援している。また、週に一回訪問歯科が来るので診てもらい、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の活用、個々の排泄パターンを把握し声かけや誘導を行い、出来る限り自立できるようにしえんしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をよく摂ってもらい、散歩等で適度な運動をして便秘防止に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	定期的に利用者に声かけを行ったり、本人の希望で入浴を行っている。又、入浴剤等を利用し楽しめるよう支援している。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに合わせているが、昼夜逆転にならないように日中は適度に昼寝をし、お手伝い、レクリエーションを行い生活リズムを整え夜間安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬チェック表に薬の情報を記載し、いつでも目に入りやすいようにしている。又、服薬時は確実に飲み込むまで側から離れない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除機、調理のお手伝い、レクリエーション等、一人ひとりの役割、楽しみを見出し充実した日々を過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺は急な斜面になっているため外出は容易ではないが、車での買い物にお誘いしたり、家族の協力を得て気分転換できるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者には小遣い程度のお金を自己管理して頂いている。時々買い物に行き、好きなものを買っていただき本人の買い物欲を満たせるようにしている。		

ミモザ港北新羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、常識の範囲内の時間であればいつでも電話をかけられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者が不快に感じる物はないようにし、季節を感じれる草花等を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを置き、利用者が好きな場所で自分のペースで過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや家具等馴染みの物を持参して頂き、本人が快適に生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の要所要所に手すりがあり、利用者ができる限り自立して生活できるようになっている。又、トイレや浴室等に呼び出しボタンがあり、いつでも職員の手を借りれるようになっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ港北新羽

作成日

平成22年9月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の際、町内会の方の参加が少ない。	できるだけ多人数での会議とし、多くの方と情報を交換し、事業所の運営についても助言を得たい。	会議の開催を、3か月毎から、2か月毎にする。また、開催日を土曜日だけでなく平日の開催も検討する。	6か月
2	35	災害対策の面で、地域との協力体制が十分とは言えない。	町内会と、防災協定を結び、事業所の避難訓練等にも参加していただき災害時に備えたい。	町内会の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方を招いて、関係を築いて協力をお願いしたい。	1年
3					
4					
5					